

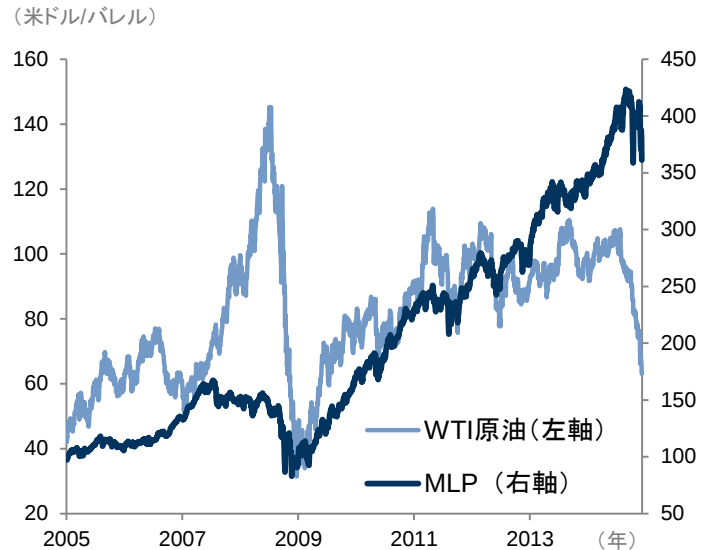
12月8日の原油相場とMLP市場の下落について

12月8日の原油相場とMLP市場の動き

- 中国や欧州経済の成長鈍化による需要減が懸念されるなか、需給が緩和するとの見方が広がったことを受け、原油価格は10月以降下落しています。加えて、OPEC（石油輸出国機構）が11月27日に開かれた総会で、世界的な原油供給過剰を緩和するための減産措置見送りを決定したことが、直近の原油価格の下落に拍車をかけています。
- OPEC諸国がかつての価格設定者（プライス・メーカー）から価格受容者（プライス・テイカー）へと立場を変えたため、市場は新たな需給均衡価格を探っている状況です。短期的には下値を模索する神経質な展開が続いており、12月8日には、イラクがアジア・米国向けの原油販売価格を引き下げたことや、中国の貿易統計がふるわなかったことなどから、WTI原油価格（スポット）は63ドル台まで下落し、2009年7月以来となる、約5年5か月ぶりの安値を更新しました。また、原油価格下落が投資マインドを冷やし、MLP市場は同日5.4%、米国エネルギー・セクター株式は4.1%下落しました。

*MLP市場はアレリアンMLP指数、米国エネルギー・セクター株式はS&Pエネルギー・セクター・セレクト指数（ともにトータルリターン、米ドルベース）

WTI原油（スポット）とMLPの価格推移



原油相場およびMLP市場の今後の見通し

- 多くのOPEC加盟国の採算価格は1バレル90ドルを上回っていることから、今後原油価格が著しくかつ持続的に低下することはOPECにとっても好ましくなく、当社では、2015年4-6月期以降にOPECの原油生産量は減少し始めると予想しています。このため、短期的には、投機的な動きも含め原油価格は下値を模索する展開が考えられます。しかし、中長期的な観点から見ると、原油価格は1バレル80ドルから85ドルのレンジで落ち着くと見えています。
- 当社では“シェール革命”に対して引き続きポジティブな見方を維持しています。ファンダメンタルズについて、重要なドライバーと考えるエネルギー生産量、米国産エネルギーの消費量、およびインフラ投資は、共に引き続き堅調に推移する見通しです。現在、米国は世界で有数のエネルギー生産国です。例えば原油については、過去5年間で50%、昨年比で15%も生産量が増加し、1987年以降、単年の増加率で最大を記録しました。米国が有する炭化水素などをはじめとするエネルギーの埋蔵量は世界最大と推定され、今後も米国は同分野で引き続き存在感を増していくと見込まれます。
- さらに、旺盛なM&A（企業の合併・吸収）、投資家からの高い注目、および米政府による援助なども北米エネルギー・インフラ市場にとって追い風になると考えています。当市場の見通しについてはポジティブに見ていますが、今後の進展や予想される課題については注視することも必要です。エネルギー市場を取り巻く環境は過去から大きく変化しており、当市場はより大きく複雑になっている中で、今後はより銘柄選択の重要性が高くなると考えています。

*米国エネルギーおよびMLP市場のより詳細な見通しにつきましては、12月4日発行のレポート「米国エネルギー産業およびMLP市場の今後の見通し」も合わせてご参照ください。